

第 3 回テーマ：明治大学博物館と御茶ノ水界隈の史跡めぐり

会を立ち上げて第 3 回目のテーマは明治大学博物館と御茶ノ水界隈の史跡めぐりを下記の通り計画しましたので案内します。

記

- 日時：平成 25 年 3 月 28 日（木） 雨天の場合は中止とします。
- 集合場所：西武線所沢駅 池袋行ホーム 小手指側（最後部） 9:00 集合
- 参加費：費用は各自で負担願います。
- 予定のコース及び概略時間

所沢駅 9:00 集合⇒9:15 急行池袋行⇒9:39 池袋駅着⇒丸ノ内線池袋駅 9:45 乗車⇒御茶ノ水駅着 9:56⇒明治大学博物館見学 10:00～11:30⇒昼食、湯島聖堂 11:30～12:50⇒御茶ノ水駅集合 12:55⇒ニコライ堂 13:00～13:30⇒神田明神 13:45～14:15⇒湯島天神 14:30～15:00⇒岩崎邸 15:10～15:50⇒御徒町駅 15:20 頃⇒池袋駅 15:50 頃乗車⇒所沢駅 18:00 頃解散

□昼食は駿河台キャンパスの自慢の 17 階の学食「スカイラウンジ眺」、アカデミーコモン 1 階の「カフェパンセ」か又は御茶ノ水駅界隈のビジネス街でのフリー昼食を予定しています。



■東京復活大聖堂(ニコライ堂)

■ニコライ堂とは、この堂を建てたニコライ大主教の名前をとった呼称で、正しくは日本ハリストス正教会教団東京復活大聖堂といいます。建築の様式は、ビザンチン式が基本で、壁が厚く窓が小さく、中央にドームがあり、外からみると壮大で堅牢です。細かい部分にイギリスのロマネスク風やルネッサンス式が巧みに取り入れられているのは、イギリス人のジョサイア・コンドルが工事監督にあたったからでしょうか。そもそもこの大聖堂が建てられた駿河台の場所は、江戸時代は定火消の屋敷跡で、火の見櫓が高くそびえており、ニコライがはじめて、明治 5 年(1872)に東京に来た際、この地に大聖堂と心に決めた所で、ロシア国公使館の付属地でもありました。最初の大聖堂は、ロシア人、シュチュールボフの基本設計、コンドルの監督設計、長野泰輔の工事責任で、明治 17 年(1884)に工事が始まり、約 7 年かかって明治 24 年 (1891)に完成しました。 (「おはなし千代田」(千代田区教育委員会) より)

■1992 年には日本教会の本山である東京復活大聖堂の修復がフェオドシイ府主教の指導のもとに開始された。ニコライ堂の愛称で親しまれている東京復活大聖堂は、国の重要文化財である。日本の重要文化財のほとんどが木造で、石造の重要文化財のうちでは東京復活大聖堂が一番古く、



これからはじまる石造の文化財の修復の最初となった。修復がはじまるまえの準備の期間を入れるとおよそ9年が費やされて、輝けるばかりの姿となった。

■このすばらしい聖堂は、高さ約34.5メートル、鐘楼の高さは約37.7メートル、建坪は約1,050㎡あります。

■聖堂内見学には拝観献金300円/人

■連絡先：大聖堂事務所 03-3295-6879 事前申込

■明治大学博物館

■概要：明治大学博物館は、本学に1929年設置された刑事博物館、1950年と1952年にそれぞれ設置された商品博物館と考古学博物館が2004年に統合され、生涯学習センターとしての役割を担うアカデミーコモン1階の地階に新たに設置された大学博物館です。

■考古部門 Archaeology：考古学は人類の過去を探り、その時の生活や文化を再構成する学問です。そのため考古学者は遺跡を発掘し、過去を復元する証拠を探すのです。明治大学では1950年に文学部考古学専攻ができて以来、旧石器時代から古墳時代にいたる各時代の遺跡を調査研究してきました。その中には現在、出土資料が重要文化財に指定されている群馬県岩宿遺跡・埼玉県砂川遺跡・神奈川県夏島貝塚・栃木県出流原(いずるはら)遺跡などが含まれています。



■スカイラウンジ暁(リバティタワー17階)

■駿河台キャンパスの自慢は17階の「スカイラウンジ暁」。その名のとおり、地上約75メートルからの眺望を楽しめる学生食堂です。平日は19:00まで営業なので、お台場の観覧車やディズニーランドの花火といった夜景も楽しめます。定番のカレーは300円、人気のオムレツハヤシは380円と値段もお手ごろ。マスコミからも「学食グルメ特集」などで取り上げられる注目の学食です。

■営業時間・・・平日 10:30～19:00(春休11～14時)

■席数・・・367席

■人気メニュー ベスト5

1. オムレツハヤシ
2. ロコモコ丼
3. 定食(週替わり)
4. チキンカレー
5. 駿台スペシャル



■湯島聖堂

■湯島聖堂は、もと上野忍ヶ岡にあった幕府儒臣・林羅山の邸内に設けられた孔子廟(先聖殿)を元禄3年(1690)、五代将軍綱吉がここに移し、先聖殿を大成殿と改称して孔子廟の規模を拡大・整頓し、官学の府としたのが始まり。この時からこの大成殿と附属の建造物を総称して「聖堂」と呼ぶようになった。こののち、寛政9年(1797)十一代家斉のとき規模を拡大し「昌平坂学問所」を開設、官学としての威容も整った。この時の設計は、かつて朱舜水(中国明朝の遺臣)が水戸徳川光圀のために製作した孔子廟の模型が参考にされた。また、これまで朱・緑・青・朱漆などで彩色されていたものを黒漆塗りとした。現在のものは、大正12年(1923)9月1日関東大震災により、罹災、入徳門・水屋を残し全て焼失、これを斯文会が復興計画を立て、昭和10年(1935)に再建したものである。復興聖堂の規模結構すべて寛政9年当時の旧聖堂に拠り、木造であったものを耐震耐火のため鉄筋コンクリート造りとした。祀られる孔子像は、朱舜水亡命時に携えて来たものが大正天皇に献上されていたものを御下賜された御物である。

また、孔子を祀る祭典である釈奠(セキテン)は、江戸時代には春秋2回、現在では毎年4月の第4日曜日の午前10時より、神田神社神官により執り行っている。



元禄三年(1690)五代将軍徳川綱吉公創建
孔子廟・神農廟 昌平坂学問所

■神田明神(神社)

社務所 03-3254-0753

■歴史：当社は、天平二年(730年)、武蔵国豊島郡芝崎村に出雲氏族・真神田臣(まかんだおみ)が自分たちのご祖先である大己貴命(おおなむちのみこと)(別名・大国主命(おおくにぬしのみこと))をお祀りしたことに始まります。その後、天慶の乱で活躍された平将門公を葬った墳墓(将門塚)周辺で天変地異が頻発し、それが将門公の御神威として人々を恐れさせたため、時宗の遊行僧・真教上人が将門様の御霊を手厚く供養し、当社のご祭神としてお祀りすることとなりました。それが、延慶二年(1309年)のことです。現在は、一の宮に大己貴命、二の宮には少彦名(すくなひこな)命(みこと)、そして三の宮に平将門命をお祀りしているのですが、神田明神というと将門様のお宮としてのほうが知られているかもしれませんね。



戦国時代になると、太田道灌や北条氏綱といった名立たる武将によって手厚く崇敬されました。

慶長5年(1600)、天下分け目の関ヶ原の戦いが起こると、当社では徳川家康公が合戦に臨む際、戦勝のご祈祷を行ないました。

江戸幕府が開かれると、当社は幕府の尊崇する神社となり、元和2年(1616)に江戸城の表鬼門守護の場所にあたる現在の地に遷座し、幕府により社殿が造営されました。以後、江戸時代を通じて「江戸総鎮守」として、幕府をはじめ江戸庶民にいたるまで篤い崇敬をお受けになりました。

明治時代に入り、社名を神田明神から神田神社に改称し、東京の守護神として「准勅祭社」「東京府社」に定められました。

また、野村胡堂の代表作「銭形平次捕物控」の主人公・銭形平次が当神田明神下の長屋に住居を構えていたという設定から、敷地内の本殿右手横に「銭形平次の碑」があります。

■神田明神資料館【拝観料 300円】：御社殿の左脇にある朱色の建造物・齋館内にある資料館。神田明神と神田祭の歴史や江戸東京文化に関する絵巻、古文書、浮世絵などを多く所蔵・展示。2階展示室には、神田明神のご祭神と歴史、神田祭の変遷、江戸の年中行事の資料を展示。江戸と現代の神田祭ジオラマや文化財『神田明神祭礼絵巻』は必見。3階展示室には、名所や文化一能、国学、江戸千家、千社札、かんざしなど江戸東京文化の浮世絵などの資料を多く展示

■湯島天満宮 湯島天満宮社務所：03-3836-0753

■概要：湯島天満宮(ゆしまてんまんぐう)は、東京都文京区にある神社。旧社格は府社で、現在は神社本庁の別表神社。神紋は「加賀梅鉢紋」。旧称は湯島神社で、通称は湯島天神。古来より江戸・東京における代表的な天満宮であり、学問の神様として知られる菅原道真公を祀っているため受験シーズンには多数の受験生が合格祈願に訪れるが、普段からも学問成就や修学旅行の学生らで非常な賑わいを見せている。また境内の梅の花も有名で、この地の梅を歌った「湯島の白梅」(1942年)は戦中時の歌として大ヒットした。



■祭神

■天之手力雄命(あめのたちからをのみこと)

■菅原道真公(すがわらのみちざねこう)

■歴史：社伝によれば、雄略天皇2年(458年)1月、雄略天皇の勅命により天之手力雄命(あめのたちからをのみこと)を祀る神社として創建されたと伝えられている。南北朝時代の正平10年(1355年)、住民の請願により菅原道真を勧請して合祀した。この時をもって正式な創建とする説もある。当の湯島天満宮では458年創建としている。徳川家康が江戸城に入ってから徳川家の崇敬を受けた。享保期には富籤の興行が盛ん(江戸の三富の1つ)になり庶民に親しまれた。明治5年近代社格制度においてに郷社に列し、明治18年に府社に昇格した。平成12年(2000年)3月31日、「湯島神社」から「湯島天満宮」に改称。

以上

第3回テーマ:明治大学博物館と御茶ノ水界隈の史跡めぐり

9:00 所沢駅集合
9:15 急行池袋行
9:39 池袋駅着
9:45 丸の内線池袋駅乗車
9:56 御茶ノ水駅着

10:00~11:30
明治大学博物館

11:30~12:50
屋食及び自由
(湯島聖堂を含む)散策

12:55 御茶ノ水駅前集合

13:00~13:30 ニコライ堂

13:45~14:15 神田明神

14:30~15:00 湯島天神

自由解散

※:ニコライ堂の拝観が午後になり、所沢着が大分遅くなりますので、湯島天神拝観後、自由解散とします。

15:10~15:50 岩崎邸

16:40 頃 御徒町駅着
17:30 頃 池袋駅乗車
18:00 頃 所沢駅帰着予定

※:今回の屋食場所と時間について、明治大学の学食は場所が狭いとのことで、各自ばらばらの食事となりそうですので自由ランチとします。

10:00~11:30
明治大学博物館

12:55
御茶ノ水駅前集合

13:00~13:30
ニコライ堂

明治大学、学食